

心理学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
実験心理学概論(心理学概論)	心理学概論	2	阿部 恒之	3	水	2	1
実験心理学概論(心理学概論)	心理学概論	2	坂井 信之	4	月	3	2
社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)	社会・集団・家族心理学	2	辻本 昌弘	3	月	4	3
社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)	社会・集団・家族心理学	2	荒井 崇史	4	金	3	4
心理学実験	心理学基礎実験	2	坂井 信之.行場 次朗. 阿部 恒之.辻本 昌弘. 荒井 崇史	3	火	3、4	5
心理学研究法	心理学研究法	2	坂井 信之.行場 次朗. 阿部 恒之.辻本 昌弘. 荒井 崇史	4	火	3、4	6
心理学各論	態度の心理学	2	今城 周造	集中(6)			7
実験心理学各論(知覚・認知心理学)	知覚・認知心理学	2	行場 次朗	6	月	5	8
実験心理学各論(感情・人格心理学)	感情・人格心理学	2	阿部 恒之	5	水	1	9
実験心理学各論(神経・生理心理学)	神経・生理心理学	2	坂井 信之	6	水	3	10
実験心理学各論(心理学統計法)	心理調査概論	2	倉元 直樹	5	月	2	11
社会心理学各論(文化心理学)	文化心理学	2	辻本 昌弘	6	金	2	12
社会心理学各論(司法・犯罪心理学)	司法・犯罪心理学	2	荒井 崇史	5	金	3	13
実験心理学演習Ⅱ	感情の心理と生理	2	阿部 恒之	6	水	1	14
実験心理学演習Ⅲ	応用心理学(行動経済学)の文献研究	2	坂井 信之	5	水	3	15
実験心理学演習Ⅳ	Fundamentals of Psychological Measurement	2	倉元 直樹	6	月	2	16
社会心理学演習Ⅰ	犯罪・非行と心理学	2	荒井 崇史	6	木	2	17
社会心理学演習Ⅱ	コミュニティと社会行動	2	辻本 昌弘	5	木	2	18
心理学特殊実験Ⅰ	心理学特殊実験Ⅰ	2	辻本 昌弘.行場 次朗. 阿部 恒之.坂井 信之. 荒井 崇史	5	火	3、4	19

心理学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
心理学特殊実験Ⅱ	心理学特殊実験Ⅱ	2	辻本 昌弘・行場 次朗・ 阿部 恒之・坂井 信之・ 荒井 崇史	6	火	3、4	20

科目名：実験心理学概論（心理学概論）／ General Psychology (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

semester：3, **単位数：**2

担当教員：阿部 恒之（教授）

講義コード：LB33204, **科目ナンバリング：**LHM-PSY206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

心理学概論

2. Course Title (授業題目)：

General Psychology

3. 授業の目的と概要：

感情心理学・生理心理学の研究例に題材にとりながら、心理学の基礎を概観する。

適宜、実験や調査への協力を呼びかけるので、それに参加して実際の心理学研究に触れてもらう。

キーワード： 心理学史・感情・ストレス・生理心理学・応用心理学

4. 学習の到達目標：

心理学の成り立ちや、人の心の基本的な仕組み・働きを中心に、心理学に関する広範な視点を身に着ける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

教科書「心理学の視点 24（第 14-17 章）」の講読を中心に進め、投影で要点を押さえる。主な内容は以下に記すが、ガイダンスで詳述する。

- 1 回目 心理学と諸科学
- 2 回目 心理学の歴史：ヴント以前の心理学
- 3 回目 心理学の歴史：科学的心理学の成立と展開
- 4 回目 心理学の歴史：計算機科学と脳科学の影響
- 5 回目 心理学の諸分野：系統発生的基盤
- 6 回目 心理学の諸分野：個体発生的基盤
- 7 回目 心理学の諸分野：認知的基盤
- 8 回目 心理学の諸分野：言語的基盤
- 9 回目 心理学の諸分野：社会的基盤
- 10 回目 心理学の諸分野：制度的基盤
- 11 回目 心理学の諸分野：文化的基盤
- 12 回目 心理学の諸分野：適応的基盤
- 14 回目 心理学の諸分野：個人的基盤
- 15 回目 試験とまとめ

6. 成績評価方法：

定期試験（60%）、実験調査への参加等の平常点（40%）

7. 教科書および参考書：

心理学の視点 24（阿部恒之ほか 5 名著、国際文献社）

8. 授業時間外学習：

テキストの予習・復習を十分に行うこと。また、実験・調査の一部は時間外学修として実施するので、必ず参加すること。

9. その他：なし

科目名：実験心理学概論（心理学概論）／ General Psychology (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：坂井 信之（教授）

講義コード：LB41301, 科目ナンバリング：LHM-PSY206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

心理学概論

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Psychology

3. 授業の目的と概要：

毎回実生活で生じる様々な事象を取り上げ、それらを実験心理学ではどのように解釈できるかということを実験例を挙げながら説明する。また、実験とはどのようなものかということを実感してもらうため、実験や調査への協力を求める。

4. 学習の到達目標：

実生活に見られる心理学的現象について、実験心理学ではどのようにアプローチしていくかについて理解し、日常生活で生じる問題が解決できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：心理テストと性格検査（導入）

第2回：心理学と諸科学

第3回：心理学の歴史 I

第4回：心理学の歴史 II

第5回：心理学の歴史 III

第6回：心理学の諸分野：個体発生的基盤

第7回：心理学の諸分野：認知的基盤

第8回：心理学の諸分野：言語的基盤

第9回：心理学の諸分野：社会的基盤

第10回：心理学の諸分野：制度的基盤

第11回：心理学の諸分野：文化的基盤

第12回：心理学の諸分野：適応的基盤

第13回：心理学の諸分野：個人的基盤

第14回：心理学の展開

第15回：まとめ

定期試験

6. 成績評価方法：

定期試験（70%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）

7. 教科書および参考書：

心理学の視点 24 阿部恒之ほか5名 国際文献社 2012

8. 授業時間外学習：

毎回の授業に関する小レポートへの回答が必要である。また、心理学に関する様々な調査・実験に参加し、心理学の知見の習得方法を体験する必要もある。

9. その他：なし

科目名：社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）／ Social, Group and Family Psychology (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘（准教授）

講義コード：LB31407, 科目ナンバリング：LHM-PSY207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

社会・集団・家族心理学

2. Course Title (授業題目)：

Social, Group and Family Psychology

3. 授業の目的と概要：

2者関係から社会全体までさまざまなレベルの集団や集合体を視野に入れて人間の社会性を論じる。授業では社会心理学の理論モデルや研究例を、日常の具体的現象に関連づけながら解説していく。

4. 学習の到達目標：

社会、集団、家族に関する社会心理学の代表的な理論モデルと研究例を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 態度と行動
2. 社会的影響
3. 社会的現実の構成
4. 多数派と少数派
5. 集合行動
6. 相互依存関係
7. 社会的ジレンマ
8. 援助行動
9. 規範と信頼
10. 文化の影響
11. 集団間関係
12. 社会的自己
13. 集団意思決定
14. 家族の機能と関係
15. まとめと試験

6. 成績評価方法：

筆記試験

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業中に適宜資料を配布するとともに参考書を紹介する。

8. 授業時間外学習：

各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進めます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。

9. その他：なし

学習の一環として心理学の実験・調査への参加を要望することがある。履修希望者が多すぎる場合には履修者を制限することがある。

科目名：社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）／ Social, Group and Family Psychology (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：荒井 崇史（准教授）

講義コード：LB45303, 科目ナンバリング：LHM-PSY207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

社会・集団・家族心理学

2. Course Title (授業題目)：

Social, Group and Family Psychology

3. 授業の目的と概要：

本授業では、社会心理学における基礎的なトピックス（社会的認知、態度、対人関係・対人行動、集団的相互作用、家族の機能等）についての知識を深めることを目的とする。授業では、各トピックスの基礎知識及び最新の研究を講義形式で紹介する。

4. 学習の到達目標：

社会的認知、態度、対人魅力、援助行動、攻撃行動、集団の影響、家族の機能等、本授業で取り上げるトピックスに関する社会心理学的理論を理解し、説明することができる。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. 全体ガイダンス：社会心理学の概説
2. 対人認知
3. 態度と行動
4. ステレオタイプと偏見
5. 自己評価と自尊感情
6. 自己呈示と自己開示
7. 対人関係の形成と発展
8. 対人コミュニケーション
9. 援助行動と攻撃行動
10. 社会的相互作用
11. 集団におけるパフォーマンス
12. 同調と服従
13. ソーシャルサポート
14. 家族の人間関係
15. 本授業の総括と知識確認

6. 成績評価方法：

最終試験・レポート 60%, 受講態度 40% (授業内課題 20%, その他 20%)

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ただし、参考書を講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。

9. その他：なし

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：心理学実験／ Psychological Experiment (Experimentation)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：坂井 信之. 行場 次朗. 阿部 恒之. 辻本 昌弘. 荒井 崇史 (教授、准教授)

講義コード：LB32304, 科目ナンバリング：LHM-PSY208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

心理学基礎実験

2. Course Title (授業題目)：

Basic Psychological Experiment

3. 授業の目的と概要：

心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。

4. 学習の到達目標：

心理学実験の基本を実験を通じて学び、基本的スキルを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：社会的態度の測定

第3回：統計解析法

第4回：SPSS

第5回：動物の行動観察

第6回：記憶検索

第7回：鏡映描写

第8回：囚人のジレンマ

第9回：ステレオタイプ

第10回：感覚の尺度化

第11回：反応時間

第12回：幾何学的錯視

第13回：ポリグラフ

第14回：脳機能計測

第15回：応用心理学分野実験

6. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

心理学実験室で指示する。

8. 授業時間外学習：

毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

9. その他：なし

履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。

後期の心理学研究法と連続履修すること。 ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

科目名：心理学研究法／ Psychological Methodology (Research Method)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時, 後期 火曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：坂井 信之, 行場 次朗, 阿部 恒之, 辻本 昌弘, 荒井 崇史 (教授、准教授)

講義コード：LB42304, 科目ナンバリング：LHM-PSY209J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

心理学研究法

2. Course Title (授業題目)：

Psychological Research Method

3. 授業の目的と概要：

心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。

以下の授業計画は担当者の都合などによる変更の可能性がある。

4. 学習の到達目標：

心理学実験・調査法などの基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：図書館情報検索実習

第2回：心理の仕事 (家裁調査官)

第3回：フィールドワーク I

第4回：フィールドワーク II

第5回：心理測定法

第6回：卒論修論中間発表会

第7回：WAIS-III 知能検査

第8回：ロールシャッハテスト I

第9回：ロールシャッハテスト II

第10回：感情評価 (覚醒水準の測定)

第11回：カウンセリング

第12回：臨床心理学

第13回：心理の資格

第14回：社会調査会社における心理学の応用

第15回：通期課題のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

心理学実験室で指示する。

8. 授業時間外学習：

毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

9. その他：なし

履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。

前期の心理学実験と連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

科目名：心理学各論／ Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

semester：集中(6), 単位数：2

担当教員：今城 周造 (非常勤講師)

講義コード：LB98828, 科目ナンバリング：LHM-PSY301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

態度の心理学

2. Course Title (授業題目)：

Psychology of attitude

3. 授業の目的と概要：

私たちが生きていくうえで、環境をどう評価し、環境とどう関わって行くかは重要なテーマである。環境内の対象への評価と行動は、態度と深い関係がある。態度の形成と変化、生活における態度の役割について、幅広く解説していく。

4. 学習の到達目標：

態度と態度変化に関する社会心理学の代表的な理論と研究例を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 態度概念：狭義には/広義には
2. 態度測定：どの側面をどう測るか
3. 態度形成の規定因：どうしてそう考えるようになるか
4. 態度機能：態度は何の役に立つか
5. 態度強度：ぶれない態度/ふらつく態度—違いは何か
6. 態度-行動関係：態度が行動をもたらす/その逆も?
7. 態度変化の諸相：どの方向へどの程度
8. 説得の構成要素：それは説得ではない
9. 説得の中心ルート：よく考えて意見を変える
10. 説得の周辺ルート：直観的に意見を変える
11. 説得過程の諸理論：意見が変わる多様な理由
12. 説得への抵抗：「聞き流す」「拒否する」
13. 態度と文化：日本ではそうでもない?
14. 健康に関する態度と説得：Health communication
15. まとめと試験

6. 成績評価方法：

平常点 30% (コメントカードによる)、筆記試験 70%

7. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書は講義内で紹介します。

8. 授業時間外学習：

予習よりも復習を重視します。資料を毎回配布しますので、それをもとに学習を進め、前回の講義の内容をよく理解したうえで出席してください。

9. その他：なし

科目名:実験心理学各論(知覚・認知心理学) / Psychology of Perception and Cognition (Special Lecture)

曜日・講時:後期 月曜日 5講時

セメスター:6, 単位数:2

担当教員:行場 次朗(教授)

講義コード:LB61503, 科目ナンバリング:LHM-PSY312J, 使用言語:日本語

1. 授業題目:

知覚・認知心理学

2. Course Title (授業題目):

Perceptual and cognitive psychology

3. 授業の目的と概要:

外界の情報、あるいは自らの身体内の情報を、人間がどのような機構と機能により、受容し、統合し、解釈するかについて、心理学的研究を中心にして、基礎的知見を学ぶ。

4. 学習の到達目標:

人間の感覚・知覚の機序及びその障害について学び、理解を深める。

人の認知や記憶、思考パターンの特性について、それらの障害も含めて学び、理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定:

1. 感覚モダリティと感覚閾、感覚順応
2. 視覚のはたらき:空間知覚 運動知覚、錯視
3. 物体知覚 顔認知
4. 色覚多様性、空間失認、物体失認
5. 聴覚系のはたらきと音声コミュニケーション
6. 化学的感覚 嗅覚 味覚 体性感覚
7. クロスモーダル知覚と錯覚
8. 選択的注意と不注意
9. 情報処理の二方向性:ボトムアップとトップダウン
10. 短期記憶 ワーキングメモリ 心的操作
11. 意味記憶 潜在記憶 イメージ
12. エピソード記憶 偽りの記憶
13. 宣言的記憶 手続き的記憶 スキーマ
14. 演繹と帰納 判断バイアス
15. 認知と思考のゆがみと心の障害

6. 成績評価方法:

出席 20%、期末試験 80%

7. 教科書および参考書:

教科書は特に使用しないが、以下の参考書を用意することが望ましい。

参考書:感覚・知覚・認知の基礎 乾 敏郎(監修) (株)オーム社 ISBN 9784274211492

8. 授業時間外学習:

授業中に指定した資料やURLを通して、授業内容に関する情報や知識を収集すること。

9. その他:なし

オフィスアワーは特に設けないが、gyoba@m.tohoku.ac.jp にメールで問い合わせること。

科目名：実験心理学各論（感情・人格心理学）／ Psychology of Emotion and Personality (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：阿部 恒之（教授）

講義コード：LB53102, 科目ナンバリング：LHM-PSY313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

感情・人格心理学

2. Course Title (授業題目)：

Psychology of Emotion and Personality

3. 授業の目的と概要：

具体的な研究事例に触れながら、感情と人格について総合的に学ぶ。

キーワード： ジェームズ-ランゲ説・キャノン-バード説・ストレス・交感神経副腎髄質系・HPA系・自尊心・自意識

4. 学習の到達目標：

感情と人格について以下のことを学び、日常生活における機能と影響を理解する。

①感情に関する理論及び感情喚起の機序, ②感情が行動に及ぼす影響, ③人格の概念及び形成過程, ④人格の類型、特性等。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

教科書「ストレスと化粧の社会生理心理学」の講読を中心に進め、投影で要点を押さえる。主な内容は以下の通りだが、ガイダンスで詳述する。

- 1 回目 ガイダンス, 感情の基礎
- 2 回目 感情の生物学的基盤
- 3 回目 感情の理論 1 古典的理論
- 4 回目 感情の理論 2 基本的感情説と次元説
- 5 回目 感情の理論 3 身体性を巡る理論の整理
- 6 回目 感情と行動
- 7 回目 感情の測定
- 8 回目 援助行動と共感性
- 9 回目 感情の制御・調整
- 10 回目 人格の概念
- 11 回目 知的機能の個人差
- 12 回目 人格の形成と変容
- 13 回目 人格の理論
- 14 回目 自尊心と自意識
- 15 回目 人格の障害

6. 成績評価方法：

期末レポート (50%), 平常点と 3 回程度の小レポート (50%)

7. 教科書および参考書：

ストレスと化粧の社会生理心理学 (阿部恒之著, フレグランスジャーナル社)

8. 授業時間外学習：

テキストを早い段階で通読すること。関連する論文を自ら見つけて、学んだ内容を発展的に自習して欲しい。

9. その他：なし

科目名：実験心理学各論（神経・生理心理学）／ Neuroscience and Physiological Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：坂井 信之（教授）

講義コード：LB63304, 科目ナンバリング：LHM-PSY314J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

神経・生理心理学

2. Course Title (授業題目)：

Neuroscience and Physiological Psychology

3. 授業の目的と概要：

この授業では、人間の「脳神経系の構造および機能」、「記憶、感情等の生理学的反応の機序」および「高次脳機能障害」のそれぞれ概要について理解することを目的とする。

4. 学習の到達目標：

ヒトの認知機能がどのような仕組みで支えられているかについて理解することができるようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は主に教員がスライドを使いながら解説する形式である。進度の予定は以下の通り。

第1回 日常生活を支える脳の仕組み

第2回 脳と神経の成り立ち：脳と自律神経系を中心に

第3回 神経系の情報伝達とその柔軟性：シナプスと神経伝達物質

第4回 大脳皮質の機能局在：前方は運動、後方は知覚

第5回 脳を測る：電気信号と化学信号

第6回 経験に基づく脳の変化

第7回 人の知情意を司る脳

第8回 ものを見るのは目か脳か？

第9回 手を動かしているのは筋肉か脳か？

第10回 記憶は脳のどこにどのような形で蓄えられるか？

第11回 怒りを感じるのは脳のどこか？

第12回 お腹が空く理由は？

第13回 脳が変わると行動や心はどのように変わるのか？

第14回 記憶を失った青年の話

第15回 心の病気＝脳の病気

6. 成績評価方法：

定期試験（70%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布・紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回の授業前後に小レポートを課するので、授業内容を予習・復習しながら、そのレポートに回答する必要がある。

9. その他：なし

科目名：実験心理学各論（心理学統計法）／ Statistics on Psychology (Special lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：倉元 直樹（兼務教員）

講義コード：LB51205, 科目ナンバリング：LHM-PSY315J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

心理調査概論

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Psychological Research

3. 授業の目的と概要：

主として計量的な心理学の方法論として幅広く使われている質問紙法や検査法、記述式のテスト、小論文、面接試験等、主観的な評価を伴う測定法を用いた尺度を開発・自作する際の技術に関わる理論的背景について学ぶ。同時に、心理検査等、心理学的測定に関わる結果を評価するための理論について、その基礎的な概念を学ぶ。信頼性、妥当性といった概念の基礎となる古典的テスト理論とその発展形である一般可能性理論、さらに探索的因子分析を中心に測定法の基礎を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

調査法の背景にある測定理論の基礎的な理解と論文によく用いられる指標に関するリテラシー。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション（テーマ、および、教科書の紹介）（1コマ）
2. 古典的テスト理論の基礎（測定の定義、信頼性と妥当性、測定誤差、妥当性の諸概念、妥当性と信頼性、信頼性のモデル、共分散、標準化、相関係数、信頼性係数の定義、平行測定、信頼性係数の意味、並行測定と信頼性係数の推定、妥当性係数、信頼性と妥当性の関係、スピアマン＝ブラウンの公式）（4～7コマ）
3. 信頼性の評価（再テスト法、平行テスト法、折半法、評定法による信頼性向上の原理、スピアマン＝ブラウンの公式の一般化、 α 信頼性係数とその意味、内的整合性と測定誤差の仮定、KR 20、内容的妥当性と測定モデル、信頼性と妥当性のジレンマ、一般化可能性理論）（4～6コマ）
4. 探索的因子分析（因子分析の基礎概念、単純構造と尺度の分類、因子軸の回転、因子分析モデルと古典的テスト理論、因子負荷量、因子得点、相関係数の構造、共通性と信頼性係数、主成分分析と因子分析、固有値と因子、探索的因子分析の手順）（3～5コマ）
5. 心理尺度作成の実際（心理学的構成概念の構築、下位概念の整理、項目の作成、ワーディング、データ収集、テスト法と調査法、項目分析の方法、通過率とIT 相関）（1～2コマ）
6. 期末考査（1コマ）

6. 成績評価方法：

出席[40%程度]・討論参加[20%程度]・期末試験[40%程度]

7. 教科書および参考書：

- (1) E. G. カーマイン・R. A. ツェラー著（1983）『テストの信頼性と妥当性』、朝倉書店
- (2) 末永俊郎編（1987）『社会心理学研究入門』、東京大学出版会

8. 授業時間外学習：

授業時間外に予習、復習を奨励する。小テストを行う場合がある。受講者の理解度に応じて指定外の参考書を利用する場合がある。

9. その他：なし

科目名：社会心理学各論（文化心理学）／ Cultural Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘（准教授）

講義コード：LB65204, 科目ナンバリング：LHM-PSY316J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

文化心理学

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Psychology

3. 授業の目的と概要：

文化により人間の行動や心理にどのような違いがみられるのだろうか。文化による違いはなぜ生じるのだろうか。異なる文化に接触したとき人間に何が生じるのだろうか。これらの問いを念頭に、この授業では、文化を研究主題にして成果をあげている心理学の理論と研究例を解説する。

4. 学習の到達目標：

文化心理学の代表的な理論モデルと具体的な研究例を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文化心理学とは
2. 生まれか育ちか
3. 心と文化
4. 日本文化論
5. 東洋と西洋の比較
6. 文化と自己
7. 適応する人間像
8. 適応論による研究例
9. 移民の異文化体験
10. 文化変容
11. 複数文化の影響
12. 文化的アイデンティティ
13. 多文化主義
14. 異文化の理解
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業中に適宜資料を配布するとともに参考書を紹介する。

8. 授業時間外学習：

各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進めます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。

9. その他：なし

科目名：社会心理学各論（司法・犯罪心理学）／ Forensic and Criminal Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：荒井 崇史（准教授）

講義コード：LB55303, 科目ナンバリング：LHM-PSY317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

司法・犯罪心理学

2. Course Title (授業題目)：

Forensic and Criminal Psychology

3. 授業の目的と概要：

本授業では、犯罪心理学の学問的位置づけ、刑事司法制度や犯罪統計など犯罪心理学を学ぶ上で基礎的な知識、犯罪原因に関する基礎理論、そして司法・犯罪分野における心理学的アセスメントや援助についての知識を深めることを目的とする。授業では、各トピックスの基礎知識及び最新の研究を講義形式で説明する。

4. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、以下の3点である。

- (1) 司法・犯罪分野の制度や法律、各機関における活動や活動倫理を理解する。
- (2) 犯罪原因論や犯罪機会論の視点から犯罪や非行の原因を理解する。
- (3) 司法・犯罪分野における心理学的アセスメントや心理学的援助を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 全体ガイダンス：司法・犯罪心理学の歴史
2. 犯罪と犯罪心理学
3. 刑事司法制度（1）：司法・犯罪に関連する法律
4. 刑事司法制度（2）：刑事司法制度の流れ
5. 犯罪統計の読み方
6. 犯罪・非行の生物学的原因
7. 犯罪・非行の心理学的原因
8. 犯罪・非行の社会学的原因
9. 環境と犯罪
10. 犯罪・非行の心理学的アセスメント
11. 犯罪者の処遇
12. 法と心理学
13. 科学的な犯罪捜査
14. 犯罪予防と地域社会への情報提供
15. 本授業の総括と知識確認

6. 成績評価方法：

試験 60%, 受講態度 40% (授業内課題 20%, その他 20%)

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ただし、参考書を講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。

9. その他：なし

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：実験心理学演習Ⅱ / Experimental Psychology (Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：阿部 恒之（教授）

講義コード：LB63102, 科目ナンバリング：LHM-PSY319J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

感情の心理と生理

2. Course Title (授業題目)：

The psychology on emotion and body

3. 授業の目的と概要：

この授業では、感情心理学・生理心理学に関して議論する。各自が授業時に示されたテキストを読み、その内容を発表し、全員で議論する。

キーワード：心身問題、身体性、システム1・2、ジェームズ、キャノン、ダマシオ、ルドゥー

4. 学習の到達目標：

感情心理学・生理心理学について深く理解し、心と体の関連性について定見を得る。

また、人前で発表することに慣れるとともに、発表スキルを磨く。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

初めの2回は、通常の授業形式で、感情心理学・生理心理学の概要や、発展的研究を紹介する。3回目以降は、学生による発表と討議によって行われる。

履修人数によって変更はあるが、一人が2回程度の発表を行うことを目指す。

- 1回目 感情心理学の基礎
- 2回目 生理心理学の基礎
- 3回目 発表と討議 (1組目)
- 4回目 発表と討議 (2組目)
- 5回目 発表と討議 (3組目)
- 6回目 発表と討議 (4組目)
- 7回目 発表と討議 (5組目)
- 8回目 発表と討議 (6組目)
- 9回目 発表と討議 (7組目)
- 10回目 発表と討議 (8組目)
- 11回目 発表と討議 (9組目)
- 12回目 発表と討議 (10組目)
- 13回目 発表と討議 (11組目)
- 14回目 発表と討議 (12組目)
- 15回目 まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、平常点と3回程度の発表 (50%)

7. 教科書および参考書：

授業中にプリント等を配布する。web経由での配布もあり。

8. 授業時間外学習：

自ら担当するテキストを読み、内容をわかりやすく要約し、パワーポイントで発表資料を作成する。授業2日前までにメール添付で提出すること (詳細は授業中に指示)。他の受講生の発表資料もコンピュータ上で閲覧できるようにするので、自分が発表当番でないときは、それを予習して授業に臨むこと。

9. その他：なし

発表資料は受講生に公開・閲覧されることを前提に作成すること。

科目名：実験心理学演習Ⅲ／ Experimental Psychology (Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：坂井 信之（教授）

講義コード：LB53311, 科目ナンバリング：LHM-PSY320J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

応用心理学（行動経済学）の文献研究

2. Course Title (授業題目)：

Seminars on Applied Psychology and Behavioral Economics

3. 授業の目的と概要：

この授業では最初に与えられた文献（専門書）を輪読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

4. 学習の到達目標：

- ① 心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。
- ② 自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

最初に与えられた英語の専門書（Behavioral Economics）を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

第1回 導入（講義の進め方／担当決め）

第2回 プレゼンテーションの方法

第3回 文献講読その1

第4回 文献講読その2

第5回 文献講読その3

第6回 文献講読その4

第7回 文献講読その5

第8回 文献講読その6

第9回 文献講読その7

第10回 文献講読その8

第11回 文献紹介その1

第12回 文献紹介その2

第13回 文献紹介その3

第14回 文献紹介その4

第15回 文献紹介その5

6. 成績評価方法：

() 筆記試験・(○) リポート[40%]・() 出席

(○) その他（発表態度）[60%]

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

予め割り当てられた章について予習をして、パワーポイントを用いて発表できるように準備しておく必要がある。また、発表時の質疑等に基づいて、パワーポイントを改訂し、提出する必要がある。

9. その他：なし

何か質問があれば、電子メール（nob_sakai@m.tohoku.ac.jp）で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。

科目名：実験心理学演習Ⅳ／ Experimental Psychology (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：倉元 直樹（兼務教員）

講義コード：LB61207, 科目ナンバリング：LHM-PSY321J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Fundamentals of Psychological Measurement

2. Course Title (授業題目)：

Fundamentals of Psychological Measurement

3. 授業の目的と概要：

量的方法論による心理学研究の方法論的基礎となる測定法の理論について基礎から学ぶ。古典的テスト理論 (Classical Test Theory) と項目反応理論 (Item Response Theory) を対比しながら、理念的な理解を深める。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交ぜる可能性も考慮する。時折、教科書の例題を基にレポートを課す可能性がある。

英語論文の理解と執筆のために標準的な英語のテキストを選定しているが、受講者の希望によっては変更も可とする。

4. 学習の到達目標：

心理学的測定論に基づく手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) (1コマ)

2. Classical Test Theory (True Scores and Error Variances, Reliability Coefficient and Estimation, Formulas for Estimating a Reliability Coefficient, Factors Affecting the Reliability Coefficient, Estimating the Standard Error of Measurement, Reliability of Difference Scores) (6～10コマ)

3. Item Response Theory (Basic Concepts and Models, Ability and Item Parameter Estimation, Assessments of Model-Data Fit, The Ability Scale and Information Functions, Item Construction and Bias, Equating, CAT) (6～10コマ)

(参加者の履修経験と準備状況によって、前半、後半のいずれに重点を置くかを決定する)

4. まとめ (1コマ)

6. 成績評価方法：

出席状況 [40%程度]・小テスト [20%程度]・発表及び討論参加 [60%程度]

7. 教科書および参考書：

(1) Traub, R. E. (1994). Reliability for the Social Sciences: Theory and Applications, Sage, Thousand Oaks, CA.

(2) Hambleton, R. K., Swaminathan, H. and Rogers, H. J. (1991). Fundamentals of Item Response Theory. Sage, Newbury Park, CA.

8. 授業時間外学習：

担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。

9. その他：なし

授業そのものは日本語で行うことを原則とする。

科目名：社会心理学演習 I / Social Psychology (Seminar) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

semester：6, **単位数：**2

担当教員：荒井 崇史 (准教授)

講義コード：LB64210, **科目ナンバリング：**LHM-PSY322J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

犯罪・非行と心理学

2. Course Title (授業題目)：

Psychology of Crime and Delinquency

3. 授業の目的と概要：

本授業の目的は、実証的な手法で実施された社会心理学並びに犯罪心理学の英文文献を多読することを通して、犯罪や非行に関連する心理学的な知識を深めることである。受講生は、事前に指定された英文文献を読むだけでなく、関連する資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

4. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、以下の2点である。

- (1) 社会心理学並びに犯罪心理学の最新の研究に触れることで、犯罪・非行に関する心理学理論や知見への理解を深める。
- (2) 心理学の英文文献を読解する力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 全体ガイダンス：授業の進め方の確認と担当の決定
2. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 1
3. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 2
4. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 3
5. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 4
6. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 5
7. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 6
8. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 7
9. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 8
10. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 9
11. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 10
12. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 11
13. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 12
14. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 13
15. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 14

6. 成績評価方法：

レポート (30%), 授業準備 (30%), 発表・討論参加 (40%)

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。担当する英文論文は授業内で決定するが、基本的には各自が準備する。なお、参考書等については講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

事前学習として、パワーポイントなどを使って、担当論文を他の履修者に説明できるように準備しておくこと。発表の担当者ではない授業の前にも、討議に積極的に参加するために、当該範囲の予習を行うこと。事後学習として、発表資料の改定を求める。

9. その他：なし

履修状況によって、授業の運営形態や発表回数に変更になることがある。初回の授業で運営形態や担当を検討しますので、履修を希望する方は必ず出席すること。なお、学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：社会心理学演習Ⅱ／ Social Psychology (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘 (准教授)

講義コード：LB54210, 科目ナンバリング：LHM-PSY323J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

コミュニティと社会行動

2. Course Title (授業題目)：

Community and Social Behavior

3. 授業の目的と概要：

この授業では、コミュニティ・文化・社会行動・集合現象などに関する社会心理学の論文を精密に読解する。それぞれの論文でとりあげられている主要な理論を理解するとともに、実際に研究を進める方法論を学ぶことが目的である。受講生は、事前に論文を読み、関連文献を調べて資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

4. 学習の到達目標：

1. コミュニティ・文化・社会行動に関する社会心理学関連の理論と研究の方法論を学ぶ。
2. 論文や文献を調べて的確に発表する力を涵養する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 (授業の進め方の説明)
2. コミュニティの文化と変容①
3. コミュニティの文化と変容②
4. コミュニティの文化と変容③
5. 文化と問題対処行動①
6. 文化と問題対処行動②
7. 移動・アイデンティティ・適応行動①
8. 移動・アイデンティティ・適応行動②
9. 移動・アイデンティティ・適応行動③
10. 社会問題と集合行動①
11. 社会問題と集合行動②
12. 社会問題と集合行動③
13. アクション・リサーチ①
14. アクション・リサーチ②
15. まとめ

6. 成績評価方法：

発表 (50%)、出席と討論参加 (50%)

7. 教科書および参考書：

とりあげる論文を授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

とりあげる論文を授業までに読み、十分に予習しておくことが必要である。

9. その他：なし

上に示した授業計画はおおよその予定であり、履修状況に応じて調整を行うことがある。

科目名：心理学特殊実験Ⅰ / Individual Instruction on Psychological Study I (Special Experimentation)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘, 行場 次朗, 阿部 恒之, 坂井 信之, 荒井 崇史 (教授、准教授)

講義コード：LB52307, 科目ナンバリング：LHM-PSY324J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

心理学特殊実験Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

Individual Thematic Study on Psychology I

3. 授業の目的と概要：

心理学基礎実験、その他の心理学関連の授業で習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに、受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し、実験や調査を行い、データの収集と分析を試みる。卒業論文研究に進むためには是非とも履修することが望ましい。

4. 学習の到達目標：

心理学の実験や調査の方法を実践的に学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 研究テーマの選定 1
3. 研究テーマの選定 2
4. 理論と方法の学習 1
5. 理論と方法の学習 2
6. 研究計画の立案 1
7. 研究計画の立案 2
8. 実験・調査の実施 1
9. 実験・調査の実施 2
10. 実験・調査の実施 3
11. 実験・調査の実施 4
12. データの分析 1
13. データの分析 2
14. レポート作成 1
15. レポート作成 2

6. 成績評価方法：

出席 (30%)、レポート (70%)

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。

9. その他：なし

履修は、原則として心理学専修の学生に限る。次セメスターの心理学特殊実験Ⅱと連続履修すること。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。

科目名：心理学特殊実験Ⅱ / Individual Instruction on Psychological Study II (Special Experimentation)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時, 後期 火曜日 4講時

semester: 6, 単位数: 2

担当教員：辻本 昌弘, 行場 次朗, 阿部 恒之, 坂井 信之, 荒井 崇史 (教授、准教授)

講義コード：LB62307, 科目ナンバリング：LHM-PSY325J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

心理学特殊実験Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Individual Thematic Study on Psychology II

3. 授業の目的と概要：

心理学基礎実験、その他の心理学関連の授業で習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに、受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し、実験や調査を行い、データの収集と分析を試みる。卒業論文研究に進むためには是非とも履修することが望ましい。

4. 学習の到達目標：

心理学の実験・調査の方法を実践的に学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 研究テーマの選定 1
3. 研究テーマの選定 2
4. 理論と方法の学習 1
5. 理論と方法の学習 2
6. 研究計画の立案 1
7. 研究計画の立案 2
8. 実験・調査の実施 1
9. 実験・調査の実施 2
10. 実験・調査の実施 3
11. 実験・調査の実施 4
12. データの分析 1
13. データの分析 2
14. レポート作成 1
15. レポート作成 2

6. 成績評価方法：

出席 (30%)、レポート (70%)

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。

9. その他：なし

履修は、原則として心理学専修の学生に限る。前semesterの心理学特殊実験Ⅰと連続履修すること。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。